

町医者だより

平成27年11月号

〈発行・お問合せ先〉

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤッポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

成人喘息はもともと多い

先月号の町医者だよりでも少し触れたのですが、日本では喘息というと「小児喘息」となってしまうため大人の方に喘息と診断すると驚かされてしまいます。成人で発症する喘息を成人喘息というのですが、先日も患者さんから成人喘息が増えてきたとテレビで言っていました、と教えていただきました。最近患者さんには、小児喘息よりも成人の喘息の方のほうが元々多くて、小児期発症の小児喘息よりも5倍くらい多いのではないかと説明していました。今回は、当院に今年の10月と11月の2ヶ月間に初診で受診された20歳以上で喘息と診断した患者さん164名の実情を見てみたいと思います。

成人発症の割合は……

受診の際に必ず確認している事は過去の咳のトラブルの有無です。もちろん喘息の症状は、咳以外にも痰がらみ、胸痛、喘鳴や息ぐるしさなどがありますが、最も多い症状は咳です。眠れない咳から時々出る咳だったり、痰がらみを伴う咳だったり空せきだったり、夜寝るときだったり明け方近かったり朝だったり仕事中だったり状況、程度は様々です。当院の患者さんでは、子供のころ咳をしていた、あるいは、喘息と診断された方は164名中41名で25%しかいません。単純に言えば、今回の患者さんでは成人喘息が小児喘息の3倍ということになります。何故ゆえに喘息と診断された方だけを見ないかという、繰り返しのせき症状があっても、どうも小児科医は喘息という病名をつけがらず、風邪をひいて咳が長引いているとか、風邪から気管支炎になってそれを繰り返しているとか、アレルギーによる咳(鼻水などの鼻炎を伴う喘息の方が80%といわれていますので鼻水は喘息につきものなのですが……)だとか保護者の方に説明していることが多いからです。

家族歴はどうかというと……

家族歴の有無について質問する時も、血のつながった方の中に咳が出やすかったり喘息といわれた方がいらっしゃるか聞くようにしています。164名中73名の44.5%の方に家族歴がありました。ただし、今回の患者さんでは小児期の咳も家族歴もどちらも無いという方が164名中86名、52.4%と半数以上いらっしゃいました。つまり、子供の頃に咳のトラブルが無くても、血のつながった方に咳が出やすい方がいなくても喘息の可能性を全く否定できないと言う事です。

実は小児期の咳や家族歴を聞くときに注意が必要です。2-3歳の頃咳が頻発していてネブライザーの治療を受けていたことを無理ないとは思いますがまったく覚えていなかった方もいらっしゃいました。また母方の祖父が実はひどい喘息だった事を知らないでいた方もいらっしゃいました。そこで再診までにご自分のご両親や年上のご兄弟などに確認してもらうことにしています。小児期に発症するのか、成人になって発症するのかは、遺伝的な背景の違いもあるとは思いますが、その患者さんが置かれている環境因子が実は非常に大きいのではないかと考えています。小児喘息とか成人喘息とか分けなくても良い、両方とも喘息(気管支喘息)と言えよと思っています。